

7月22日(木曜日)

ドル/円

新たな材料を模索する展開に

21日(水)の主な推移

チャート: 30分足 21日(水)朝6時 ~ 22日(木)朝6時

ダウ平均株価

10120.53ドル
(-109.43ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.8800%
(-0.0735%)

NY原油先物

76.56ドル
(-1.02ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 小高く寄り付いた日経平均が徐々に上げ幅を縮小。この流れの中でドル/円はジリジリと値を下げる展開となった。
- ② 夕方、ユーロ/円で112.00円を割り込むなどユーロ安・円高が進むに連れ、ドル/円でも円高が進行。17時30分には86.87円の安値を付けた。
- ③ 米金融機関ウェルズ・ファード、モルガン・スタンレー、ノーザン・トラストの第2四半期決算が市場の予想よりも強い結果になったことを受け、時間外のダウ平均株価先物が上昇すると、ドル/円では円売り優勢となった。米長期金利が上昇に転じたことも、ドル/円の上昇に寄与した模様。
- ④ 日本時間22日3時から開始された米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長による議会証言において、同議長が「経済見通しは引き続き異常に不透明」「FRBは必要に応じて一段の政策行動を取る用意がある」はあるとしながらも、追加緩和について踏み込んだ発言はなく、あくまで慎重な姿勢を崩さなかったことから、前日に浮上した追加緩和期待が剥落し、ダウ平均株価は下落。これを受けてドル/円ではドル安・円高が進行した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 85.90- 87.60円

20日に台頭した米国の追加緩和への期待感も、21日のバーナンキFRB議長が緩和策の実行について慎重な姿勢を示したことで、一旦この話題は終わった格好だ。本日は新たな材料を模索する展開になる見通しである。

東京市場では特段の材料もなく、株価に連れる展開が予想されるが、欧州市場以降は手掛かり材料が多い。夜に発表される下記のような米国の経済イベントの他、欧州では各国の製造業及びサービス業の7月PMIの発表などもあり、夕方は欧州経済指標結果から足元の欧州経済の強さを計り、欧州株価やクロス円が動く展開になる可能性がある。最近の夕方のドル/円はクロス円に連れる傾向が強いため、気を配っておきたいところだ。夜についても引き続き米国の株価の方向性がドル/円相場の鍵となる公算だ。ただ、米長期金利が現在の低水準で推移するようだと、株が上昇してもドル/円の上値は抑えられる可能性がある。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/22(木)	20:30	○	(米) キャタピラー第2四半期決算	—	—
	21:30	○	(米) AT&T第2四半期決算	—	—
	21:30	◎	(米) 7/17までの週の新規失業保険申請件数	42.9万件	44.5万件
	23:00	◎	(米) 6月中古住宅販売件数	566万件	510万件
	27:00	○	(米) マイクロソフト第2四半期決算	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com